

2021年5月30日 第6回オープンミーティング報告

2021年5月30日、オンラインで運営委員会をした後、公開のオンライン・ミーティングを開催しました。

テーマ： p4c とインクルーシブ教育

報告者 辻 明典 (福島県小学校教員)

司会 松山 美稀 (メルボルン在住)

時間 午後3時～午後4時30分

参加者は基調報告者と司会以外は、運営委員5名、一般の参加16名、の計 23名

概要

自己紹介

発表要旨

p4c とインクルーシブ教育

p4c は〈問う〉こと？

問うことの前に向き合うこと。円になって

探求とは何？理解に包まれること

インクルーシブ教育はインクルーシブ教育システムではない

特別支援学校などはインクルーシブ教育に貢献しているか。

小学校の学級数は減っているが、特別支援学校の児童生徒の数は増えている（特に知的障がい者）。

通級による指導を受けている子も増えている。

障がいがある子の就学先については、本人と保護者の意見を最大限尊重し合意形成を図ることが原則ではあるが、市町村教育委員会が最終決定をする。

重度障がいであっても p4c はできるか？ →できる。

しゃべらなくても、言葉はある。

障がいを「てつがく」してみる

重度障がい者に対する一般的な見方。

ことばをこえて、かかわるために。

一般的な評価をはるかに超える力がある。

描画の援助があれば、絵を描く。自分を表現する

支援・適用できる

こつ

- 1 人格を尊重する。一人の個人として接する
- 2 おしゃべり 相槌を見逃さない、一人語りのテクニック、話題を身近なものにする
- 3 簡単なルールからお互いを理解する。丁寧に説明し相手から返事をもらってから
- 4 その他 動かないことも認める。二者択一は実は不自由（第三の選択肢、その他、△）
支援者の情動はすぐ伝わる

高校に入ってから親と話げできた。支援があつてのこと。相手の心へ、直接語り語り掛けることを心がける。

いつかできるようになるということを信じて待つ。

表情が変わる。

問題行動が減る。

本人が困っていることを一緒に考える。

人は、一人ではない。（ずっと孤独だった。

どうして一人でできることがここまで強調されるのか？

見えないもの、見てないものを、見えるようにする。

一人の人間へと連れ戻す。問うことの前に、向き合う。

Q&A

Q：向き合うということとは？

A：通常の子に対してはしないことをしない（先入見をもたない）。普通に接する。

Q：自分自身にも向き合うこと？

A：向き合うことが対話を生み出す。

Q：向き合うということは安心感？

A：話す手前にあるもの・あること。

Q：p 4 c で問いの立て方を学ぶ前に、その支援が必要ではないか？こういう点では特別支援の子と同じ側面があるのではないか？

A：一般の小学校ではお互いに知らないことが多い。友だちの話を聞くという空間になっていない。

Q：一般校にきて、どうして話す・聞くが苦手か。日本人特有なのか、学校という空間が問題なのか。コ

コミュニケーション能力が大切だと言いながら、なかなかできない。

Q：先生を見本にする、子どもがそれを読み取る。個を認め、その声を聴いていることが、子どもにそのような態度を生み出しているのではないか。それから、次第に相互にクラスの中で実践していく。辻さんは哲学対話をしてきたうえで、学校の教師になっている。背景が違う。人の話を聞くというところの素養があるのではないか。教師はどうしたら授業がうまくいくかという発想から逃れられない。

Q：小さいころから関りをもちたいということ。インクルーシブの教育ではサポートをしているが、日本やオーストラリアはどうか。

A：日本では、地域差が大きい。意外と情報が共有されていない。

A：メルボルンではサポートの先生が常駐している。

Q：どうして特別支援へ通う子が増えているのか。

A：ちょっとしたことで、支援が必要なのではないかとということが増えたような気がする。

A：医療の観点から、発達科学が発達してきたので、スクリーニングができるようになった、増えていることが単に悪いことではない。きめ細やかな支援ができる。高齢者出産も影響しているのかもしれない。

A：教員生活の中で多動性というような子が細やかな形で配慮されるようになってきた。これまでは分からなかったことが分かるようになり、子どもへのケアがきめ細やかになってきたが、安易に流れると、この子はこうなんだという形で処理してしまっていることもあるかもしれない。

特別支援学校（養護学校）はインクルーシブではない

ICT 教育の支援の立場からの感想。教師がつかれている感じ。教員同士の連携や、支援をしている教員の支援が必要。

ことばをこえて、かかわるために

言葉だけじゃない

人格を尊重する

簡単なルールから

以上
文責 梶形